

# MOTO ピピラの本モトフィールド FIELD

ステップアップ・バイクシリーズ

第2回キッズデザイン賞受賞  
「ピピラの本モトフィールド」のご案内  
MEDIA INFORMATION 2008.10.14

ワクワクが  
加速する!!



## バイクを通じて子どもの成長を促す

「ピピラの本モトフィールド」は鈴鹿サーキットのゆうえんち「モトピア」にある、子どもがバイクを体験できるエリアです。

(同様のバイクシリーズは多摩テック（東京）、ツインリンクもてぎ（栃木）にもあります。)

ここでは安全に楽しく、バイクへのファーストタッチからレッスン、ツーリングまで体験できます。

乗れば乗るほど楽しく、そしてステップアップを感じていただけます。

上手に乗れた子どもに、写真入りのライセンスを発行することで「のれたっ!」という感動をカタチに残すことができます。

危険なイメージのあるバイクだからこそ、倒れないバイクを開発するのではなく、

子どもに危険を感じ取る力、自分の身は自分で守るという体験をしていただく事を目標にしました。

我々は「自ら操る喜び」を感じる乗り物を提供することで、

自主性・自立心や社会性の醸成を助け、子どもの健やかな成長に寄与します。

## キッズデザイン賞の主旨

キッズデザイン賞は、子どもの安全・安心の向上、健やかな成長発達に役立つ製品、コンテンツ、活動、リサーチなどを顕彰し、表彰作品に“キッズデザインマーク”を付与するものです。産官学民が“デザイン”の力を通じて生み出した、子どもたちのための成果について、社会的、文化的な価値の見地から公正な評価を与え、その優れたものの顕彰を通じて、産業・研究活動と子ども環境の高度化を図ることを目的としています。

## 基本理念と審査のポイント

### 子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン

- 大人を主なユーザーとする製品でかつ子どもへの安全対策が施されている
- 子どもの身体特性、行動特性に準ずる安全・安心への配慮が施されている
- 技術、素材等の優れた応用・活用により子どもの安全・安心への配慮が施されている
- ヒューマンエラーの存在を前提に、不測の状況が子どもにもたらす影響を考慮したデザインを施している
- 個別の機能・性能を組み合わせ、集約し、統合的に子どもの安全・安心の品質を高めている

### 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン

- 子どもの創造力を喚起・進化させる仕掛け、機能が盛り込まれている
- 子どもの身体的・精神的発育に対して新たな提案が盛り込まれている
- 親（大人）と一緒にあって共に楽しめる工夫・アイデアが盛り込まれている
- 子どものコミュニケーション能力、表現能力を高める工夫が施されている

### 子どもたちを産み育てやすいデザイン

- 育児の際に子どもの安全を確保し、かつ親（大人）の身体的・精神的負担を軽減している
- 家事労働などの際に子どもへ気配り、視線を確保できる
- 親（大人）の目の届かない場所での子どもの安全・安心を確保している
- 出産、育児を安心に、楽しく行うための配慮がなされている

上記のいずれかが特に優れており、意匠・設計・造形に美しさ、魅力、独創性を有するもの、また、子ども目線の取り組みや工夫が施されているもの。

主催 特定非営利活動法人（内閣府認証 NPO）キッズデザイン協議会

後援 経済産業省



キッズデザイン賞は、グッドデザイン賞と同じく、経済産業省の後援を受けて活動しています。両賞は、キッズデザイン賞の一次審査を通過したものはグッドデザイン賞に2次審査から登録できるなど、繋がりのある賞となっています。

[www.kidsdesignaward.jp/](http://www.kidsdesignaward.jp/)

## 第2回キッズデザイン賞受賞 「ピピラの本モトフィールド」のご案内

鈴鹿サーキット ゆうえんちモトピア内のバイクアトラクションエリア、「ピピラの本モトフィールド」が第2回キッズデザイン賞コミュニケーションデザイン部門を受賞致しました。

モビリティランドは創業以来、「操る楽しさの提供による、モータリゼーションの拡大」を基本コンセプトに、「自ら操る喜び」の提供に全力を注いできました。

数多く揃えられた、お子様が自由に操縦できる乗り物は、様々な感性や社会性を育むきっかけとなります。何回乗っても同じ道を走ることが無く、毎回違う発見や気づきを産み出し、お客様一人一人がオリジナルのストーリーを笑顔と共に持ち帰っていただけます。

そんな当社のオリジナリティを顕著に表しているのが、今回第2回キッズデザイン賞を受賞しました「ピピラの本モトフィールド」エリアです。

このエリアでは特に安全性が重要視される遊園地で、あえて転倒の可能性のある2輪のバイクにお乗り頂けるエリアを提供しております。それはお子様の自主性や社会性を育む狙いがあるからです。それらは交通社会、引いては一般社会においても重要な要素だと言えます。

もちろん乗り方の説明だけでなく、本格的な防具の装備、バイクやコースにも安全への工夫を凝らしておりますので、安心してお子様に楽しんでいただけるよう配慮しております。

保護者の方と離れ、同年代のお子様やスタッフのお兄さんお姉さん達とのコミュニケーションを経験することで、お子様たちの社会性を育みます。お子様はバイクの乗り方を教わり、失敗を繰り返して、そしてバイクを上手に操る事が出来るようになります。上手に乗れた人にだけ発行される写真入りのライセンスは、お子様に自信を与え、次のステップに進むきっかけになるでしょう。

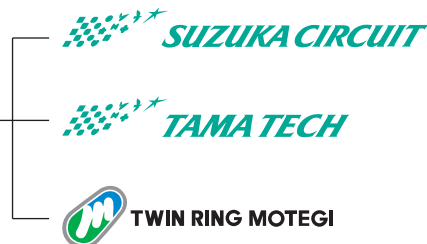
モビリティランドの提供するモビリティをテーマにしたオリジナリティあふれる空間、世界に類のない"モビリティリゾートランド"は、お客様の「操る喜び」を創造するために進化し続けます。

## 自ら操る喜び

意思力・行動力・想像力      自分以外のモビリティを動かす      達成感

### MOBILITYLAND

モビリティランドは「鈴鹿サーキット」「多摩テック」「ツインリンクもてぎ」の三事業所を運営しています。今回受賞したバイクシリーズは、どの事業所でも営業しております。





### STEP1



- 乗車定員：1人乗り
- 料金：300円（パスポート利用可）
- 年齢制限：3歳～
- コース：全長38m

ピンキーバイクは3歳から安心して乗れる自立式のスクーター。転倒しないと言っても、アクセルとブレーキの操作、ハンドリングや、独自の機構によりバイクの傾きを体感できるなど、フィーリングはバイクそのもの。



乗車し終わるとピンキーカードがプレゼントされ、自分の顔写真を入れる事が出来ます。



### STEP2



- 乗車定員：1人乗り
- 料金：500円（パスポート利用可）
- 年齢制限：3歳～小学生まで（補助輪の無い自転車に乗れる方）
- コース：全長48m
- 利用時間：約20分間（講習・運転説明、練習走行、コース走行）

キッズバイクでは、まるで本物のバイクの教習所のようにスタッフが子どもにバイクの乗り方を教えます。初めてバイクに「のれた！」という達成感を味わっていただき、上手に乗れた人にはAライセンスが発行され、次のステップに進むことができます。



ルールを守って走ることが出来た人にはAライセンスが発行されます。キッズバイクでは、初めてバイクに乗れたことを証明するため、バイクに乗っている写真になります。



### STEP3



- 乗車定員：1人乗り
- 料金：500円（パスポート利用可）
- 年齢制限：キッズバイクAライセンスをお持ちの方または小学生3年生以上の方
- コース：全長150m(2周)

キッズバイクでAライセンスをゲットできたら、ツーリングバイクに挑戦しましょう。変化に富んだ、緑豊かな風景をイメージさせるコースを自由に走ることが出来ます。大人の方も乗れるので、親子そろっての初めてのツーリングをお楽しみいただけます。



ツーリングバイクのライセンスは、バイクシリーズ最終ステップの証であり、ゆうえんちに来ている子どものステータスとなります。





不安定な乗り物であるバイクに安全に乗っていただくため、様々な工夫が凝らされています。

第2回キッズデザイン賞受賞



転倒しない構造となっており、シートベルトが装備されている



体を挟みにくい隙間や機構、鋭利な角の排除などが施されている



割れない素材など材料選定にも注意している



## バイクの基本に触れる

アクセルグリップを回して進み、アクセルグリップを戻してブレーキをかけて止まる、と言う基本的な操作を、楽しい音楽共に楽しむことができます。オートバイが傾いて走るように、車体が傾く構造になっています。並び列に設置されたハンドル練習機では、待ち時間にイメージトレーニングをしていただけます。

## 初めての2輪車に挑戦する

アルミフレームの採用など、小さいながらも本格的なバイクであることにこだわりました。子どもが支えられ、転倒した場合のダメージを緩和するため、軽量、低重心に設計してあります。ステップが倒れたり、ブレーキレバーを操作したり、ウイリーをした時にはモーターが停止するなど、バイクの操作や姿勢を感知して転倒時の巻き込まれ防止の工夫がなされています。

## 公道に近い運転感覚を養う

ツーリングバイクでは自由度が高いコースを走るため、周りへの気遣いなど、公道のような思いやりを持った運転意識が要求されます。ハードはさらに本格的に、ヘッドライト、テール、ブレーキランプが光る仕様となっています。また、親子でツーリングをお楽しみいただけるように、大人も乗れる設計となっています。

## 準備も大切な教育的要素

バイクに乗ることだけでなく、準備も子ども自身にさせていただいています。しっかり準備して乗ること、防具の大切さを伝えたいからです。



子どもの判断のしやすさを考え、手袋は色分けて反射的に認知できるように工夫



## コースにも安全への気配り

転んでも怪我をしにくいように、コースにゴムチップ舗装を施しています。障壁も発砲ウレタンなどの柔らかい素材で構成されており、安心してご利用いただけるように見た目にも柔らかさが伝わる造形としています。



## 交通教育活動への応用

当社の交通教育のノウハウを活かし、キッズバイクでは子どもとその保護者に交通教育プログラムを講習する施策が行われています。



## 開発の声

「ステップアップ・バイクシリーズを開発したきっかけは、単純にバイクが好きだったことに始まります。そのうちに、レースなどで間近に見て感じていたバイクの素晴らしさとその反面のリスクを知り、より多くの人に良いバイクの理解者になってほしいと思うようになりました。

また、当社の遊戯物はバイク（モンキー）から始まったことから、今の我々もそこにたどり着きたいという想いもありました。先人の想いをきちんと運営できるかたちにしたいと思いました。

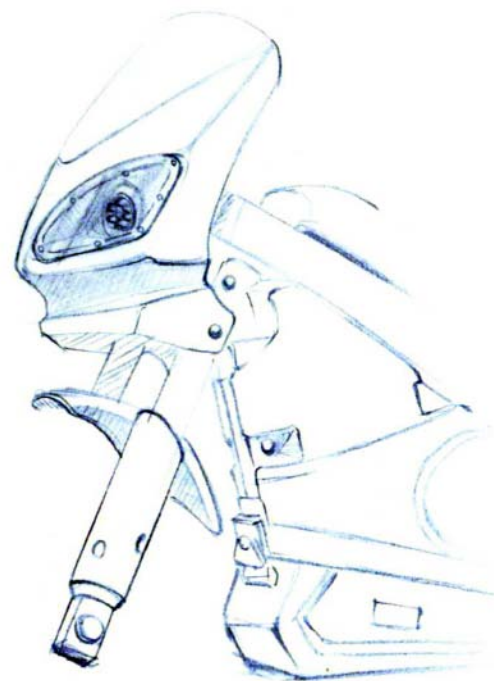
プライベートでも自分の子どもたちに自分のつくった乗り物を乗せてみて、その感触を確かめてみることもたくさんやってきました。この経験から、バイクがお子様の成長を促すきっかけになることに気付きました。

しかし開発する機会を頂ける段階になると、様々な問題にぶち当たりました。最初から最終形態を狙っていたわけではなく、様々な工夫を凝らしたり、またそれ以上に人の助けがあり、今のカタチに行きつきました。

運営するスタッフによってつくられてきたバイクのソフト面は今も生き物のよう進化を続けています。

バイクの開発はこの3種類のバイクで完結しません。もう一つ、最終段階のバイクを目指します。それは、バイクのスピードと自分自身をコントロールすることを体験できるステップのバイクです。」

テックプロ 中島 剛久



## スタッフの声

「子供たちは1秒1秒成長しています。フラフラだったお子様も終わるころにはスイスイ乗ってる…。お子様たちの可能性を感じる瞬間です。」

鈴鹿サーキット 川崎宗継

